

ネットアンケート『地域福祉に関する意識』結果概要

H29.12 保健福祉課まとめ

1 目的

「栃木県地域福祉支援計画（第3期）」の推進状況把握に当たっての基礎資料及び今後の地域福祉推進施策の企画・立案の際の参考とするため実施したもの。

2 調査期間・回答率等

調査期間	対象	回答数	回収率
H29.11.1～11.14	ネットアンケート協力者384名	229名	59.6%

3 結果概要

(問1)「地域福祉」の言葉や意味の認知度

- 1 言葉も意味も知っている・・・・・・・・・・28.4%
- 2 言葉は知っているが、意味はよくわからない・・・・・・・・40.6%
- 3 言葉も意味も知らない・・・・・・・・・・31.0%

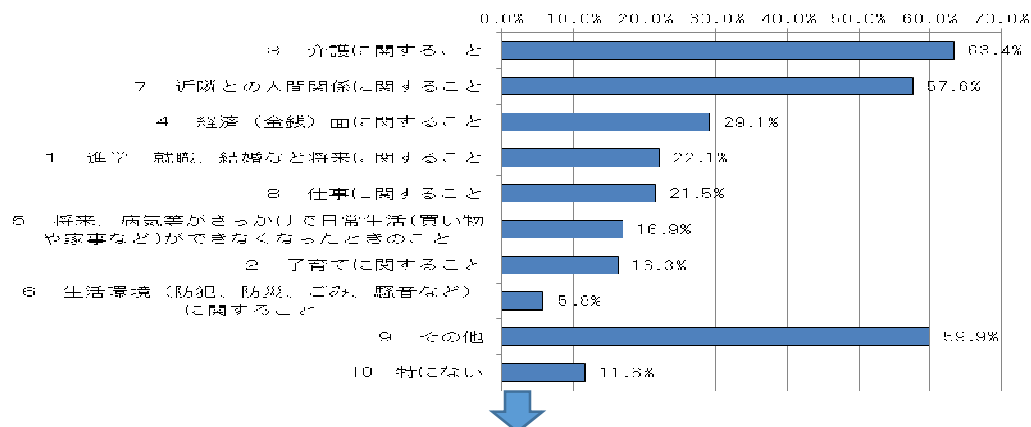


- ・「地域福祉」の意味も含めて知っているのは3割弱であり、一層の普及啓発が必要と考えられる。
- ・特に、40～50代の認知度が低く、何らかの対策が必要と考えられる。

(問2)「地域福祉」に関しての考え方

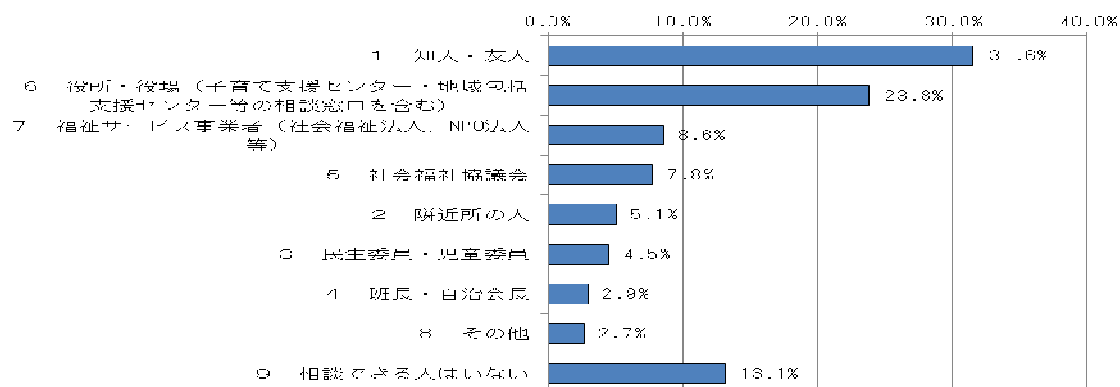
- 1 行政と地域住民、民間組織等の様々な機関が協力し合いながら行うものである・・・・80.3%
- 2 行政（国や地方自治体）の責任で行うものである・・・・・・・・7.4%
- 3 近隣の助け合いやボランティアなど慈善的に手を差し伸べるものである・・・・10.5%
- 4 昔から、親・兄弟が互いに助け合うという考え方があるのだから、親類縁者が面倒をみればよい・・・・1.7%
- 5 福祉を必要とする人は、自分でもっと努力すべきであり、援助の必要はない・・・・0%

(問3)暮らしの中での悩みや不安



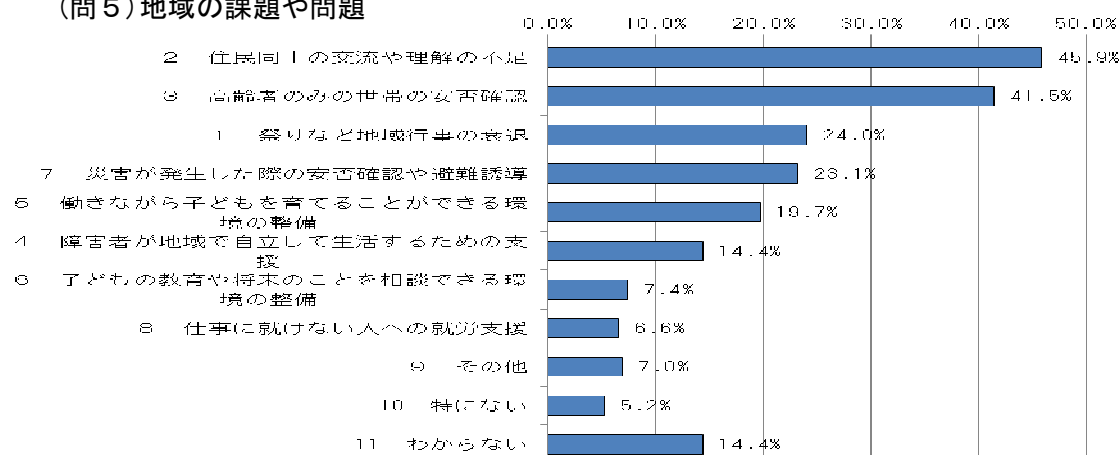
- 介護に関することや、近隣との人間関係を挙げる回答が多く、相談支援機関の役割がますます重要になっているものと考えられる。

(問4) 悩みや不安の相談先(相手) ※家族・親族を除く



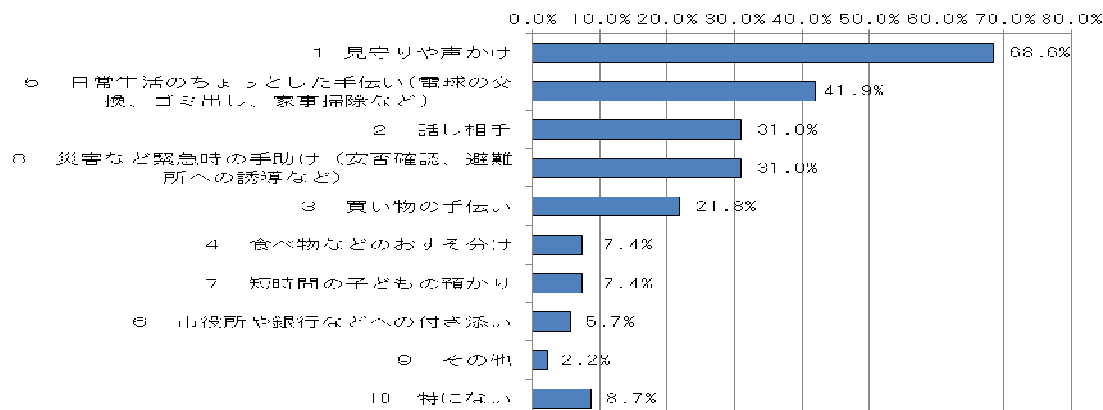
家族・親族を除いた場合、「相談できる人はいない」という回答も1割強あり、身近な相談機関の設置や周知が重要であると考えられる。

(問5) 地域の課題や問題



「地域のつながりの希薄化」が一つの要因と思われる課題が生じており、住民同士が交流し、助け合える関係がつけられるようなきっかけづくりが必要と考えられる。

(問6) 日常生活で困っている家庭に対して協力できること



住民同士の見守りや声かけ、日常生活のちょっとした手伝いについては協力できるとの回答が比較的多く、実践につなげる仕組みづくりが必要と考えられる。

(問7) 住民同士が助け合うことが可能な範囲

- | | | |
|---|-----------|-------|
| 1 | 隣近所（例：班内） | 45.9% |
| 2 | 町内会や自治会 | 36.2% |
| 3 | 小学校区 | 5.7% |
| 4 | 中学校区 | 1.7% |
| 5 | 市町全域 | 4.4% |
| 6 | 県全域 | 1.7% |
| 7 | その他 | 0.9% |
| 8 | わからない | 3.5% |



住民同士の「互助活動」には、小さな範囲（自治会程度）での仕組みづくりについて検討する必要があると考えられる。

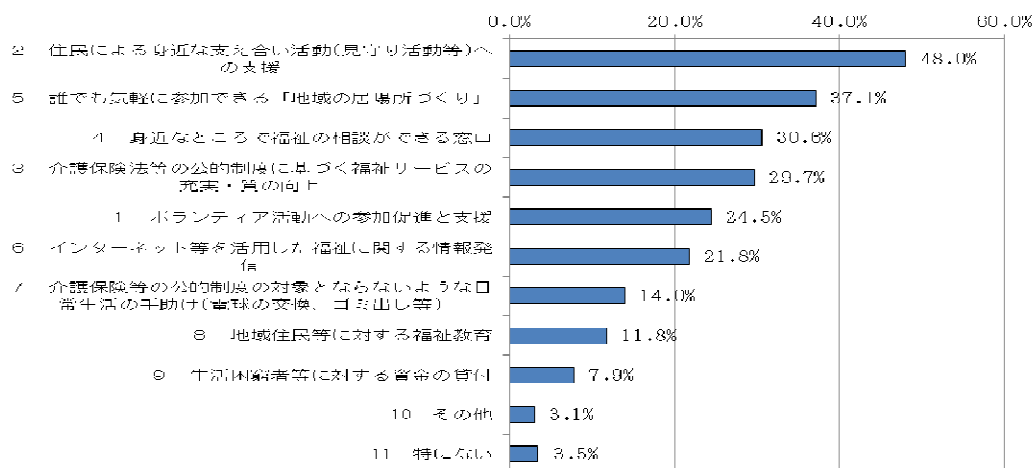
(問8) 社会福祉協議会の認知度

- | | | |
|---|---------------------|-------|
| 1 | 名前も活動内容も知っている | 47.6% |
| 2 | 名前は知っているが、活動内容は知らない | 45.4% |
| 3 | 名前も活動内容も知らない | 7.0% |



半数以上が社会福祉協議会についての理解が十分ではなく、活動内容の発信力強化の取り組みが必要と考えられる。

(問9) 社会福祉協議会が行う活動のうち、今後特に充実してほしいこと



支え合い活動への支援や「居場所づくり」に対する期待が比較的高く、ニーズに応じた取り組みを地域住民とともに進める必要があると考えられる。

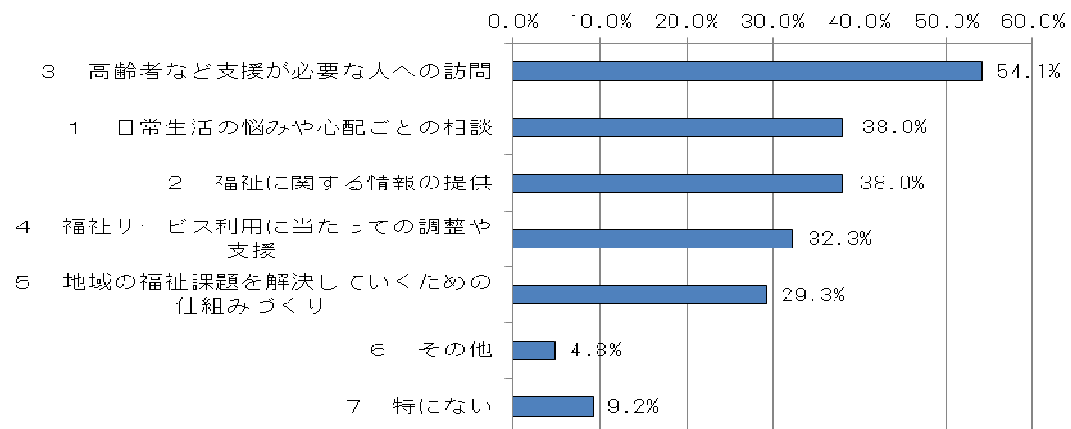
(問 10) 民生委員・児童委員の認知度

- 1 委員が誰か知っているし、活動内容も知っている・・・26.6%
- 2 委員が誰かは知っているが、活動内容は知らない・・・14.8%
- 3 委員が誰かは知らないが、活動内容は知っている・・・27.1%
- 4 委員が誰かも知らないし、活動内容も知らない・・・31.4%



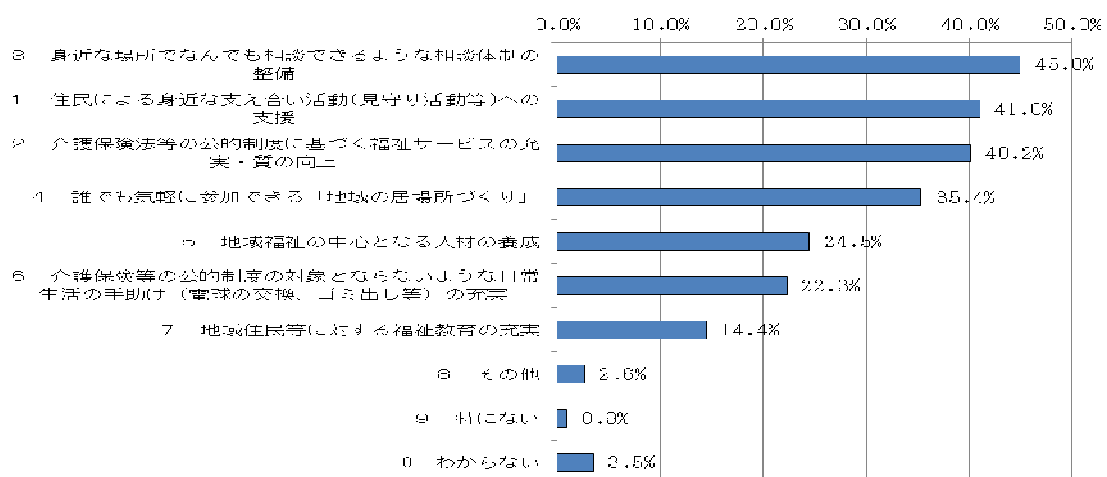
約 7 割以上が民生委員についての理解が十分ではなく、その役割や意義について一層の普及啓発の取り組みが必要と考えられる。

(問 11) 民生委員が行う活動のうち、今後特に充実してほしいこと



訪問や相談活動に対する期待が比較的高く、行政はそれらの活動がしやすい環境整備に努める必要があると考えられる。

(問 12) 地域福祉の推進に当たって、行政が重点的に取り組む必要があること



公的な福祉サービスのほかにも、行政に対して様々な施策が求められており、中でも、住民にとって「身近」で「気軽」な取組へのニーズが高いことを踏まえ、検討を進めていく必要がある。

4 まとめ

【結果総括】

- 「地域福祉」、「社会福祉協議会」、「民生委員」のいずれも認知度が低調であり、一層の普及啓発が必要である。
- およそ9割は、何らかの不安や悩みを感じており、それらを受け止めてくれる、「身近な」相談機関等の設置が必要である。
- およそ9割は、「困っている家庭に協力できることがある」という意欲を持っており、それらを実践する「きっかけ」づくりが必要である。
- 行政や社会福祉協議会に対して、「身近」で「気軽」な取組へのニーズが高いことを踏まえ、今後の施策を検討していく必要がある。



【取組の方向性】

- 「支え手」側と「受け手」側が固定することなく、誰もが役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる「地域共生社会」の実現に向け、市町行政や、社会福祉協議会、民生委員などの関係機関等と十分に連携しながら、取組を進めていく。

平成 29 年度 第7回

とちぎネットアンケート結果報告書

調査項目

『地域福祉に関する意識』

(栃木県保健福祉部保健福祉課)



平成 30 年1月

栃木県県民生活部広報課

目次

I 概要 1

II 調査結果 3

I 概要

1 調査目的

県民の皆さんに、住民同士の支え合い活動など「地域福祉」に関連する意識等をお伺いし、現状や課題等を把握することを目的としています。

調査結果については、「栃木県地域福祉支援計画（第 3 期）」の推進状況把握に当たっての基礎資料として活用させていただくとともに、今後の地域福祉推進施策の企画・立案の際の参考とさせていただきます。

2 調査設計

（1）調査対象者

とちぎネットアンケート協力者（平成 29 年度第 7 回アンケート対象者）384 名

（2）調査方法

電子メールによる配布及び電子申請による回答

（3）調査期間

平成 29 年 11 月 1 日～11 月 14 日

3 回収結果

とちぎネットアンケート協力者（平成 29 年度第 7 回アンケート対象者） 384 名中 229 名が回答
回収率 59.6%

男女別回答者内訳

区分	回答者数(人)	構成比(%)
男性	144	62.9
女性	85	37.1
全体	229	100.0

年代別回答者内訳

区分	回答者数(人)	構成比(%)
10代	0	0
20代	9	3.9
30代	31	13.5
40代	50	21.8
50代	46	20.1
60代	56	24.5
70代以上	37	16.2
全体	229	100.0

地域別回答者内訳

区分	回答者数(人)	構成比(%)
県央地域	121	52.8
県南地域	60	26.2
県北地域	48	21.0
全体	229	100.0

4 報告書の見方

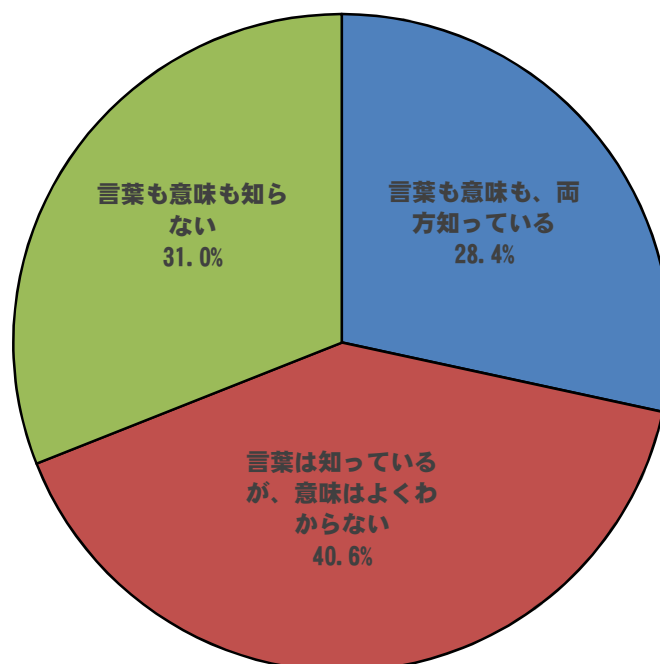
- (1) 本文に使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。
- (2) 百分率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しました。そのため、単数回答(1つだけ選ぶ設問)の百分率(%)の合計が100.0%にならない場合があります。
- (3) 複数回答(2つ以上選ぶことができる設問)は、百分率(%)の合計が100.0%を超える場合があります。
- (4) 図表では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合があります。

Ⅱ 調査結果

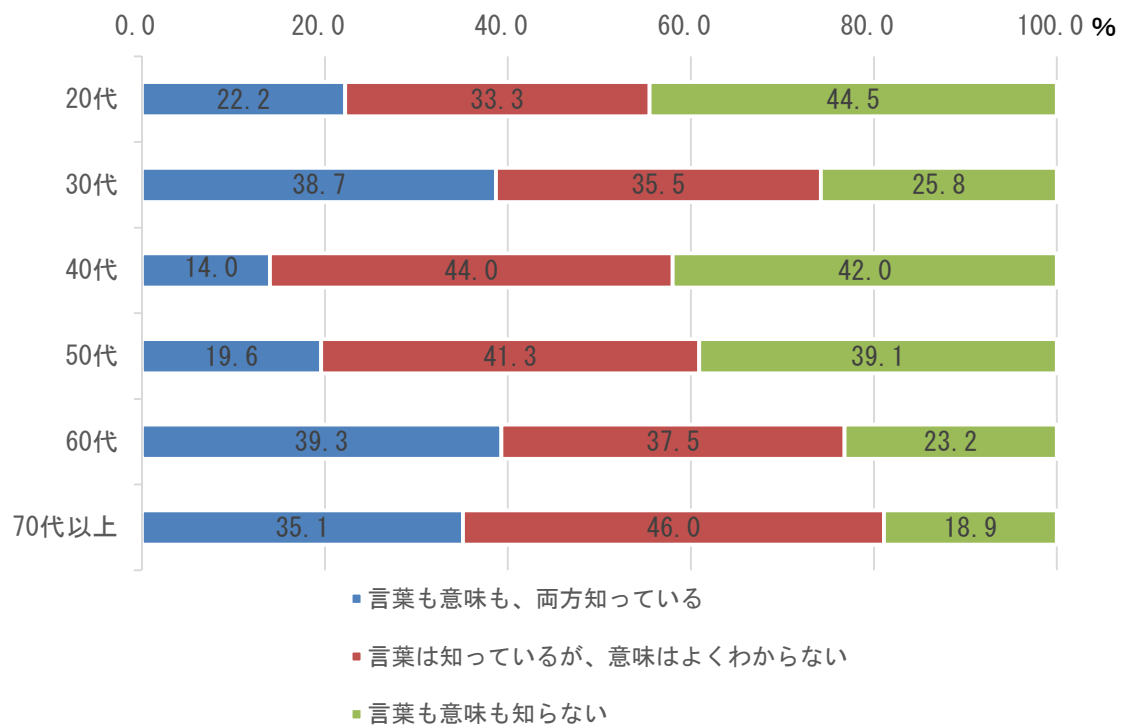
【問１】あなたは「地域福祉」という言葉を知っていますか。（n＝229）

- | | |
|------------------------|-------|
| 1 言葉も意味も、両方知っている | 28.4% |
| 2 言葉は知っているが、意味はよくわからない | 40.6 |
| 3 言葉も意味も知らない | 31.0 |

※ 「地域福祉」とは、それぞれの地域において人びとが安心して暮らせるよう、地域住民や公私の社会福祉関係者がお互いに協力して地域社会の福祉課題の解決に取り組むという考え方です。（全国社会福祉協議会 HP から抜粋）



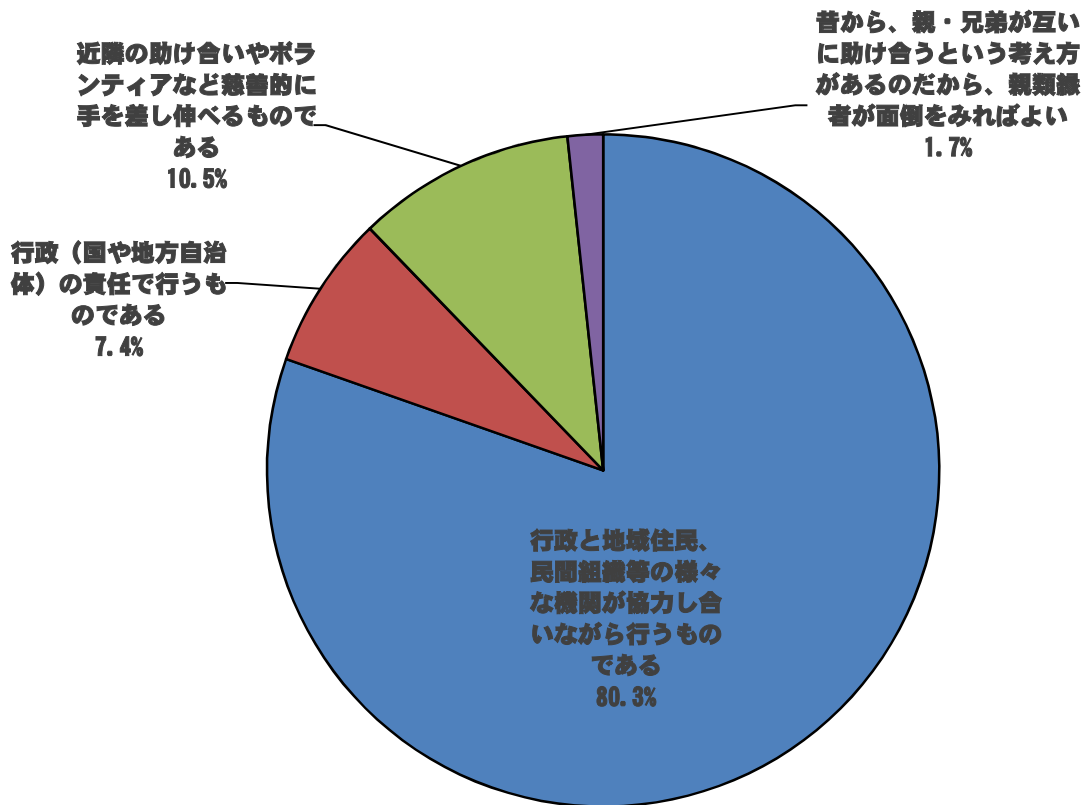
【年代別】



【問2】「地域福祉」に関して、あなたの考えに最も近い選択肢は次のどれですか。

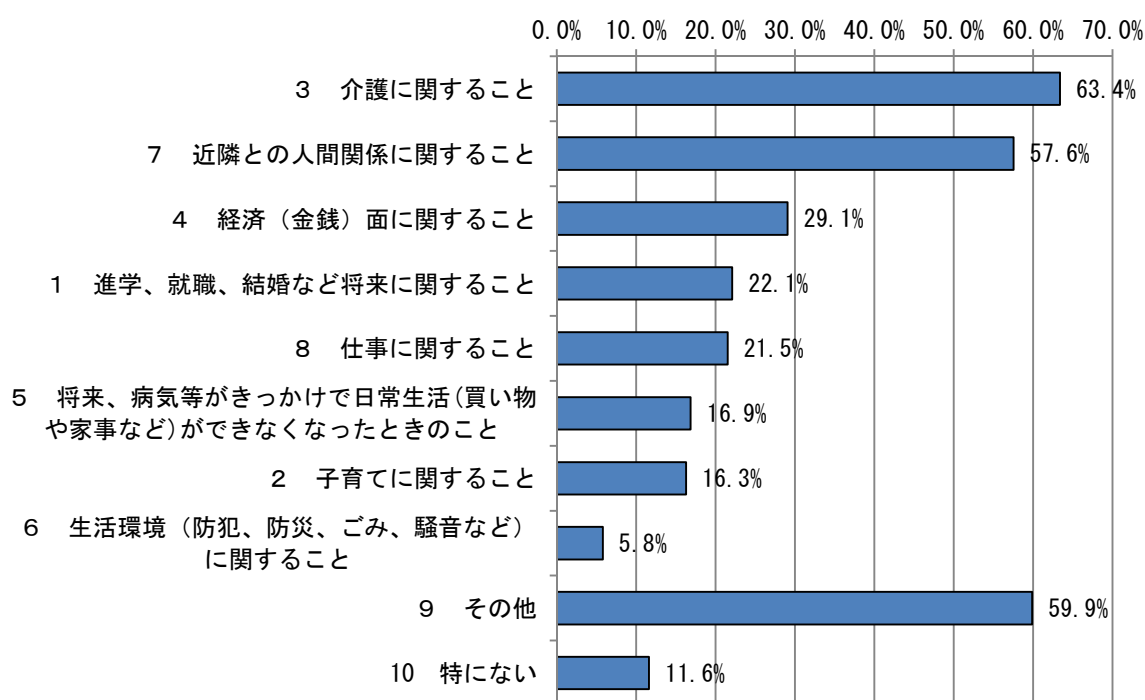
(n=229)

- | | | |
|---|---|-------|
| 1 | 行政と地域住民、民間組織等の様々な機関が協力し合いながら行うものである | 80.3% |
| 2 | 行政（国や地方自治体）の責任で行うものである | 7.4 |
| 3 | 近隣の助け合いやボランティアなど慈善的に手を差し伸べるものである | 10.5 |
| 4 | 昔から、親・兄弟が互いに助け合うという考え方があるのだから、親類縁者が面倒をみればよい | 1.7 |
| 5 | 福祉を必要とする人は、自分でもっと努力すべきであり、援助の必要はない | 0 |
| 6 | その他 | 0 |



【問3】あなたは、毎日の暮らしの中で、自分や家族に関することなどについて、どのような悩みや不安を感じていますか。（3つまで選択可）（n=229）

1	進学、就職、結婚など将来に関すること	22.1%
2	子育てに関すること	16.3
3	介護に関すること	63.4
4	経済（金銭）面に関すること	29.1
5	将来、病気等がきっかけで日常生活（買い物や家事など）ができなくなったときのこと	16.9
6	生活環境（防犯、防災、ごみ、騒音など）に関すること	5.8
7	近隣との人間関係に関すること	57.6
8	仕事に関すること	21.5
9	その他	59.9
10	特にない	11.6

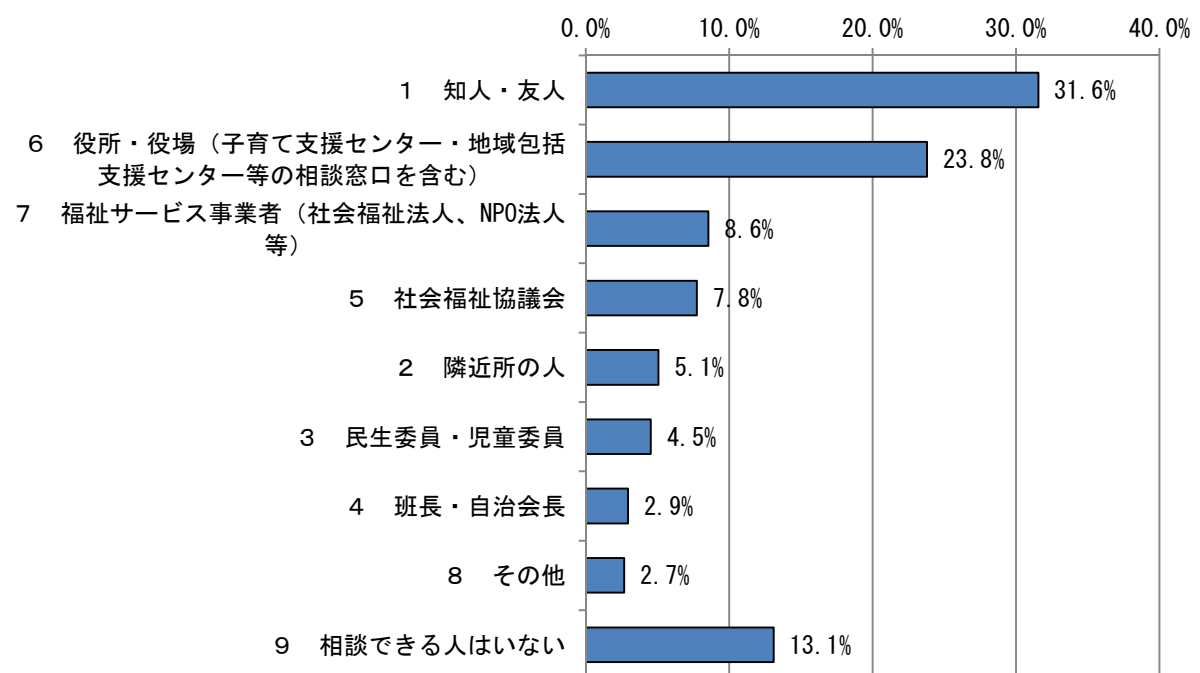


【その他の主な意見】

- ・ 自分の居場所
- ・ 中山間地域の過疎化、鳥獣害被害がまだ出ていない地域の対策
- ・ 災害時の避難について

【問４】生活上の問題で困ったときに、家族・親族以外で相談するところ（相手）はどこですか。（３つまで選択可）（n＝229）

1 知人・友人	31.6%
2 隣近所の人	5.1
3 民生委員・児童委員	4.5
4 班長・自治会長	2.9
5 社会福祉協議会	7.8
6 役所・役場（子育て支援センター・地域包括支援センター等の相談窓口を含む）	23.8
7 福祉サービス事業者（社会福祉法人、NPO 法人等）	8.6
8 その他	2.7
9 相談できる人はいない	13.1

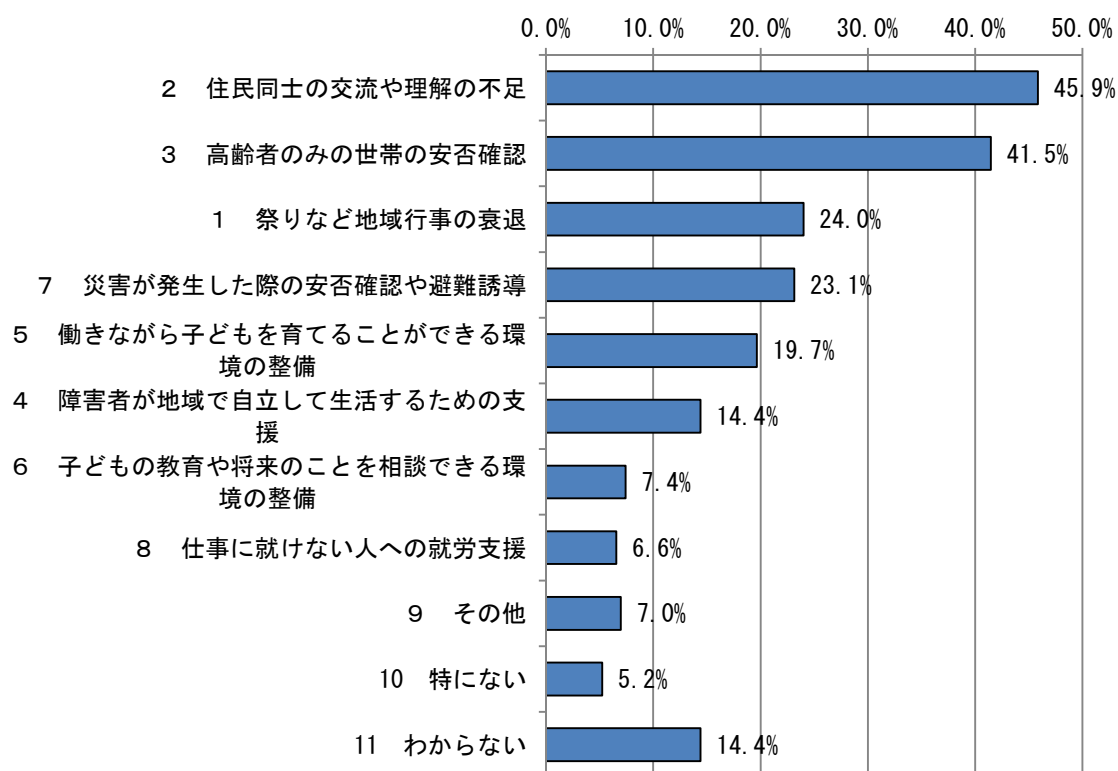


【その他の主な意見】

- ・ 塾の先生
- ・ 通っている病院の担当医
- ・ プライベート的なものは他人に相談せずに解決する。

【問5】あなたの住んでいる地域で、課題や問題になっていることは何ですか。（3つまで選択可）（n=229）

1	祭りなど地域行事の衰退	24.0%
2	住民同士の交流や理解の不足	45.9
3	高齢者のみの世帯の安否確認	41.5
4	障害者が地域で自立して生活するための支援	14.4
5	働きながら子どもを育てることができる環境の整備	19.7
6	子どもの教育や将来のことを相談できる環境の整備	7.4
7	災害が発生した際の安否確認や避難誘導	23.1
8	仕事に就けない人への就労支援	6.6
9	その他	7.0
10	特にない	5.2
11	わからない	14.4

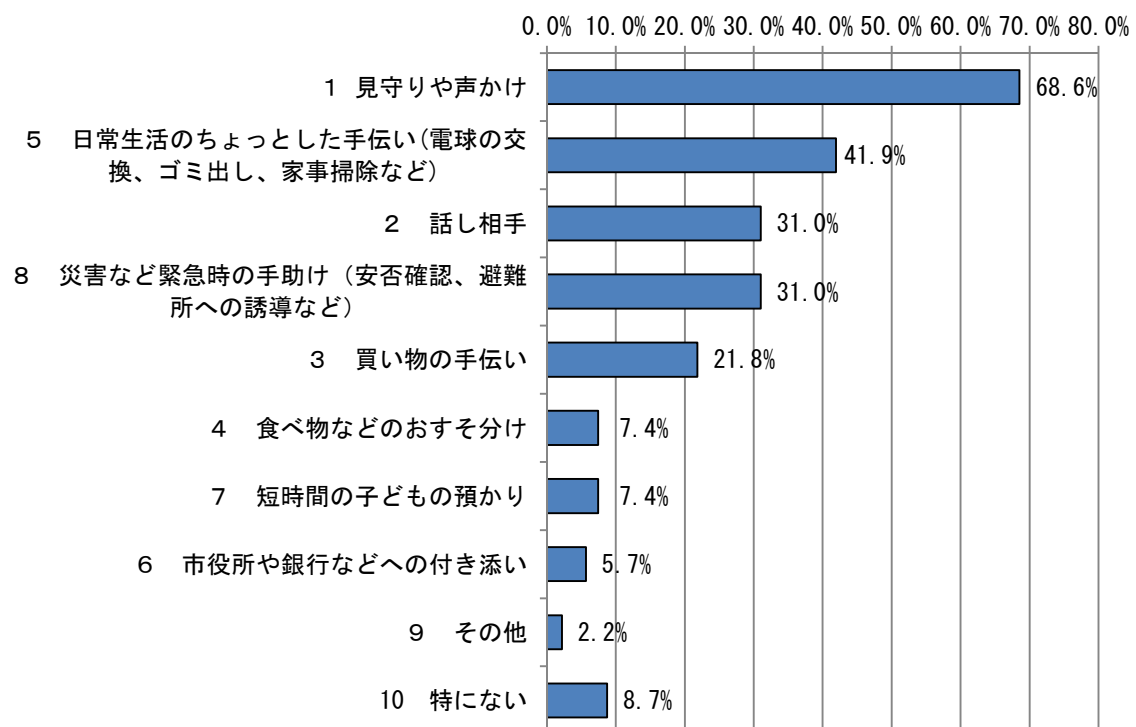


【その他の主な意見】

- ・ 自治会未加入者及び脱退者（自治会への非協力者）の増加
- ・ 若手不足。今は夫婦共働きも多く、地域の行事に参加する人が少ない。

【問6】あなたの近所に高齢や障害、子育てなど、日常生活で困っているご家庭があった場合、あなたが協力できると思うものは何ですか。（3つまで選択可）（n＝229）

1	見守りや声かけ	68.6%
2	話し相手	31.0
3	買い物の手伝い	21.8
4	食べ物などのおすそ分け	7.4
5	日常生活のちょっとした手伝い（電球の交換、ゴミ出し、家事掃除など）	41.9
6	市役所や銀行などへの付き添い	5.7
7	短時間の子どもの預かり	7.4
8	災害など緊急時の手助け（安否確認、避難所への誘導など）	31.0
9	その他	2.2
10	特にない	8.7

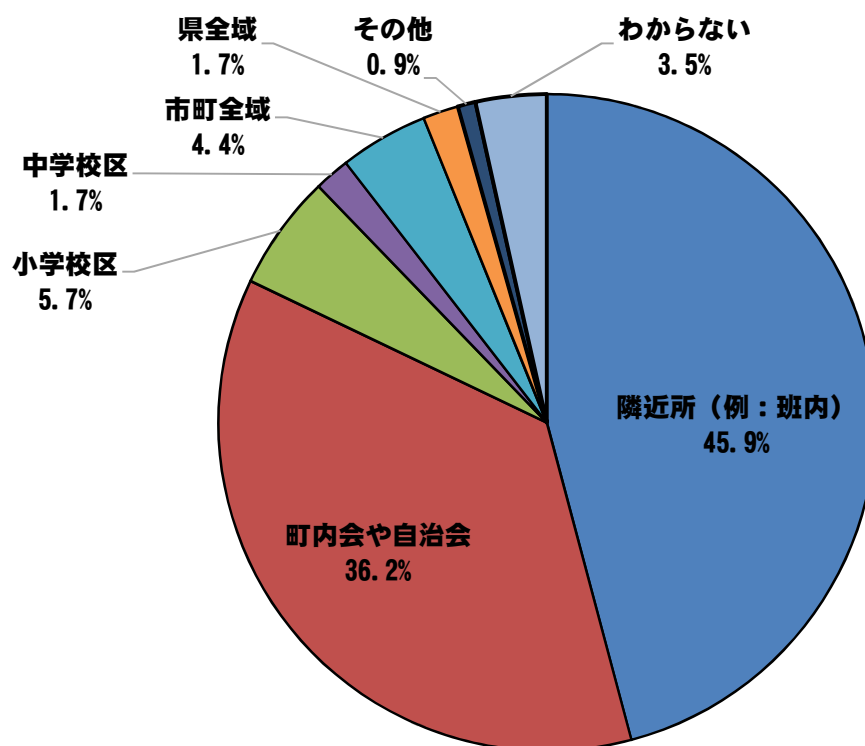


【その他の主な意見】

- ・ 教育支援

【問 7】あなたは、地域で住民同士がお互いに助け合うことが可能な範囲はどのくらいの広さだと思いますか。（n＝229）

1	隣近所（例：班内）	45.9%
2	町内会や自治会	36.2
3	小学校区	5.7
4	中学校区	1.7
5	市町全域	4.4
6	県全域	1.7
7	その他	0.9
8	わからない	3.5



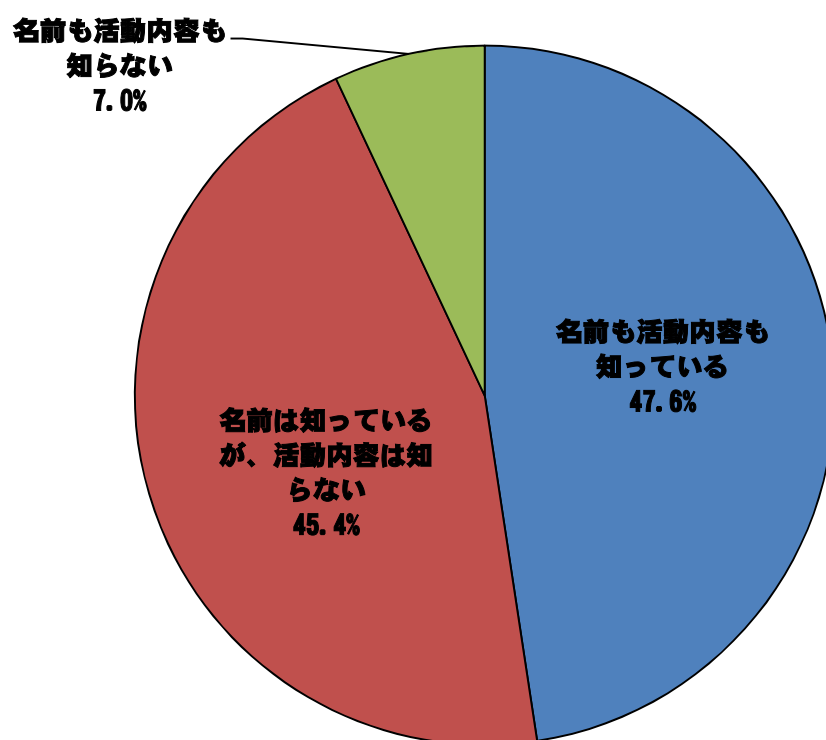
【その他の主な意見】

- ・ 町内会や自治会でも世帯数に大きな違いがある。私の住んでいる自治会は世帯数約 900 戸あり、町内会や自治会等の判断は難しい。可能な世帯数で考えれば約 100～150 戸が理想だと思う。

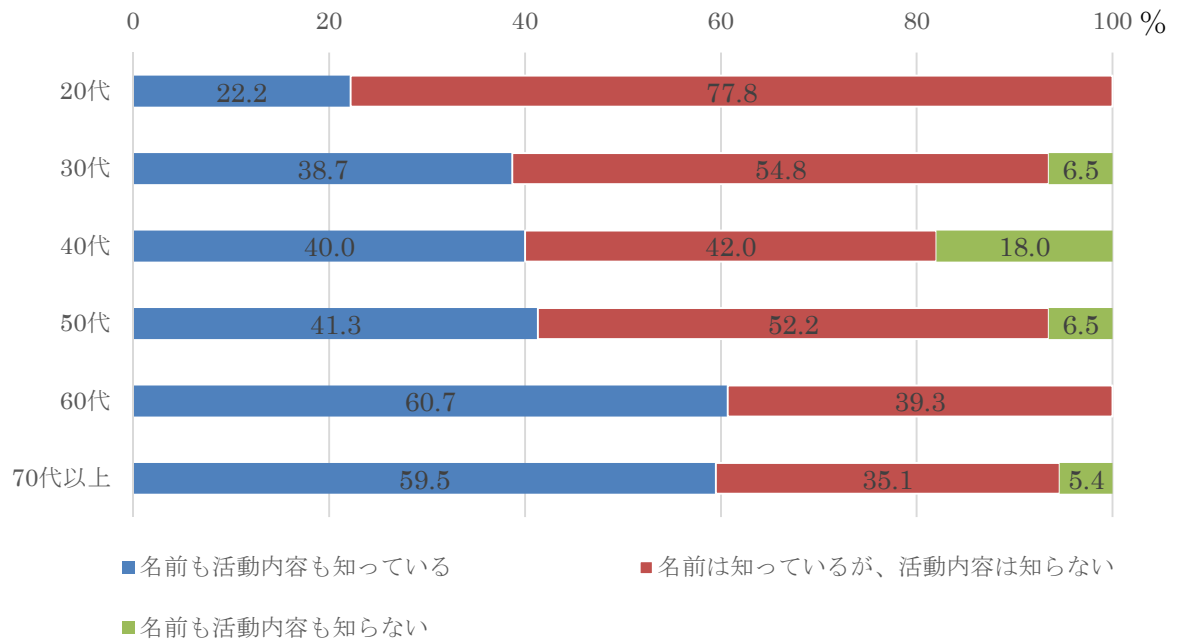
【問 8】あなたは、社会福祉協議会を知っていますか。（n＝229）

- | | |
|-----------------------|-------|
| 1 名前も活動内容も知っている | 47.6% |
| 2 名前は知っているが、活動内容は知らない | 45.4 |
| 3 名前も活動内容も知らない | 7.0 |

※ 社会福祉協議会は、社会福祉法第 109 条に基づき、全国、都道府県及指定都市及び市町村ごとに組織されている、地域福祉推進を図ることを目的とした民間の非営利団体です。

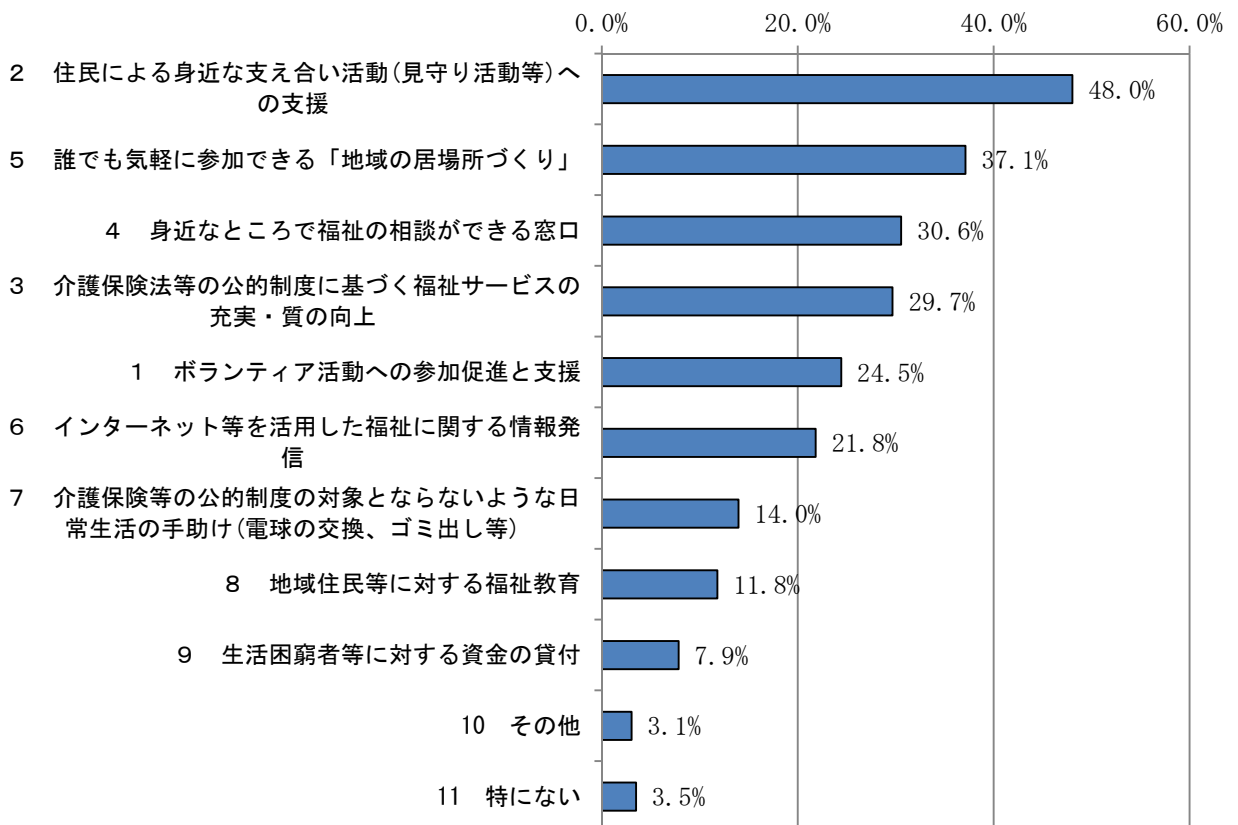


【年代別】



【問9】社会福祉協議会が行う活動や支援のうち、今後、あなたが特に充実してほしいと思うものは何ですか。（3つまで選択可）（n=229）

1	ボランティア活動への参加促進と支援	24.5%
2	住民による身近な支え合い活動（見守り活動等）への支援	48.0
3	介護保険法等の公的制度に基づく福祉サービスの充実・質の向上	29.7
4	身近なところで福祉の相談ができる窓口	30.6
5	誰でも気軽に参加できる「地域の居場所づくり」	37.1
6	インターネット等を活用した福祉に関する情報発信	21.8
7	介護保険等の公的制度の対象とならないような日常生活の手助け（電球の交換、ゴミ出し等）	14.0
8	地域住民等に対する福祉教育	11.8
9	生活困窮者等に対する資金の貸付	7.9
10	その他	3.1
11	特にない	3.5



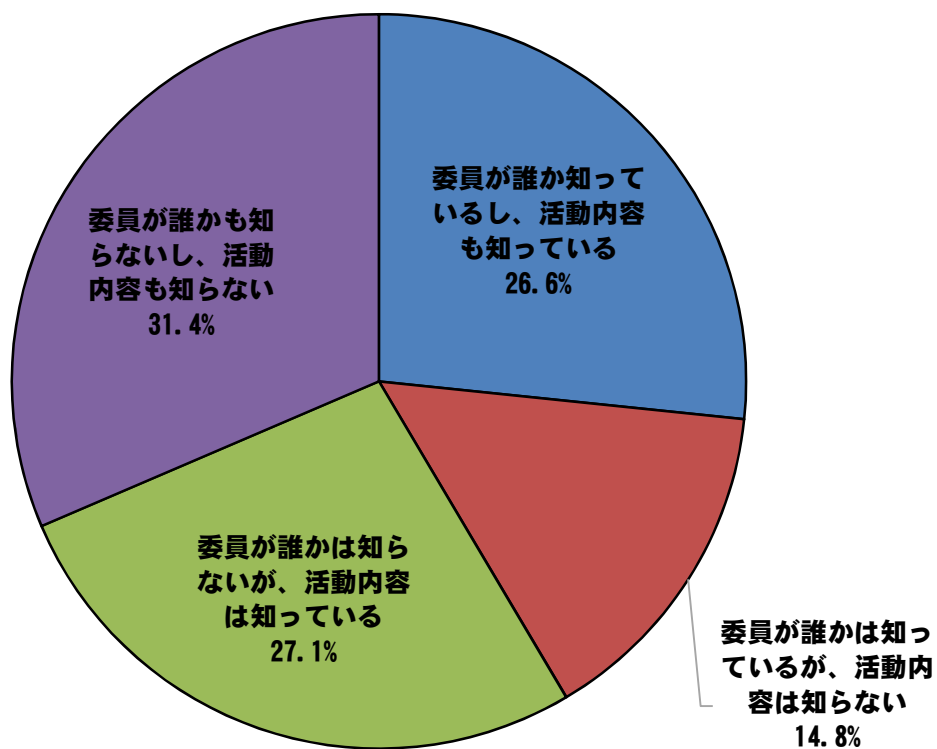
【その他の主な意見】

- ・ 地域内の福祉関連のリーダー（民生委員よりも身近に、気軽に相談できる相手）になれる人物の養成・育成

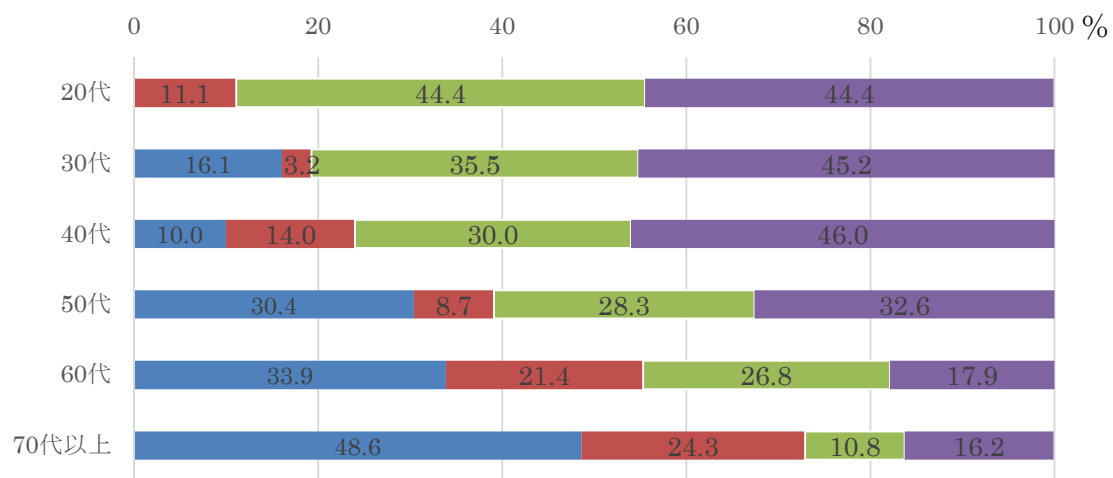
【問１０】あなたは、地域の民生委員・児童委員を知っていますか。（n＝229）

- | | |
|--------------------------|-------|
| 1 委員が誰か知っているし、活動内容も知っている | 26.6% |
| 2 委員が誰かは知っているが、活動内容は知らない | 14.8 |
| 3 委員が誰かは知らないが、活動内容は知っている | 27.1 |
| 4 委員が誰かも知らないし、活動内容も知らない | 31.4 |

※ 民生委員は、民生委員法に基づき、厚生労働大臣から委嘱された地域のボランティアです。常に住民の立場に立って、各種相談に応じるなど、行政や学校など様々な機関と連携・協力しながら、誰もが安心して暮らせる地域社会をつくるために活動しています。また、児童福祉法に基づく、「児童委員」も兼ねています。



【年代別】

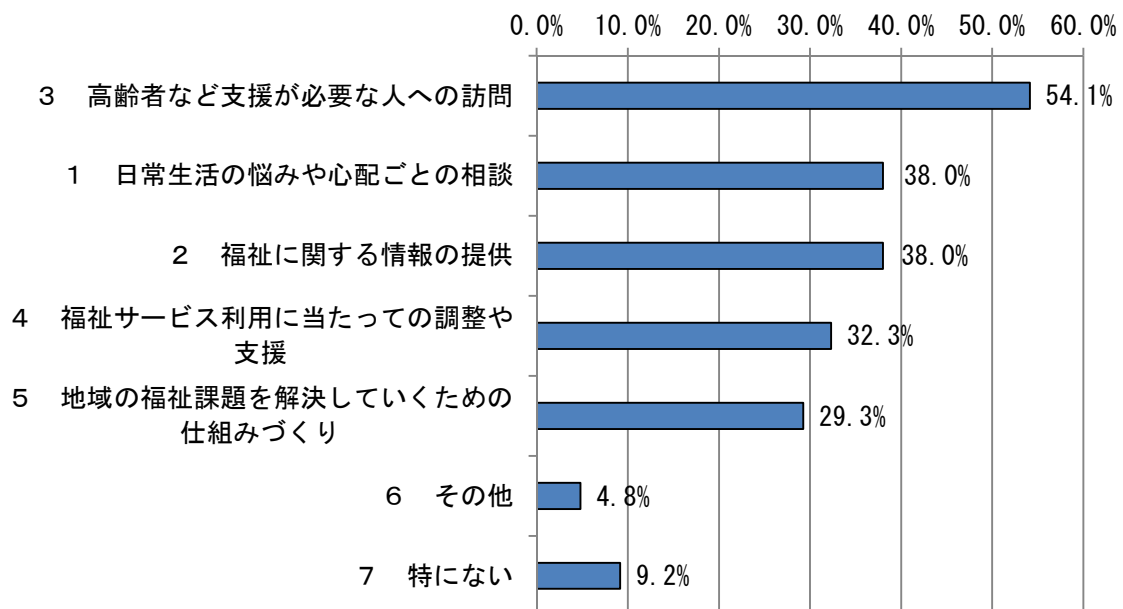


■ 委員が誰か知っているし、活動内容も知っている ■ 委員が誰かは知っているが、活動内容は知らない

■ 委員が誰かは知らないが、活動内容は知っている ■ 委員が誰かも知らないし、活動内容も知らない

【問 1 1】民生委員・児童委員が行う活動のうち、今後、あなたが特に充実してほしいと思うものは何ですか。（3つまで選択可）（n=229）

1	日常生活の悩みや心配ごとの相談	38.0%
2	福祉に関する情報の提供	38.0
3	高齢者など支援が必要な人への訪問	54.1
4	福祉サービス利用に当たっての調整や支援	32.3
5	地域の福祉課題を解決していくための仕組みづくり	29.3
6	その他	4.8
7	特にない	9.2

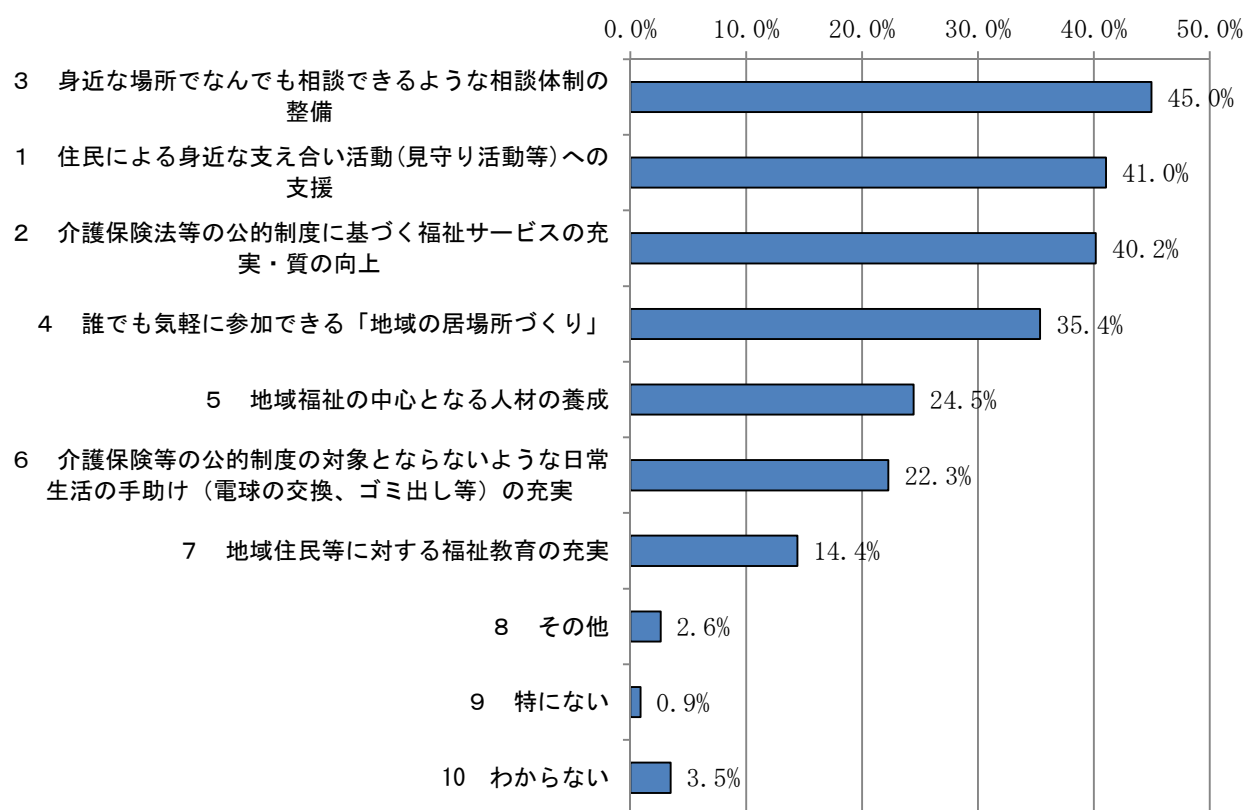


【その他の主な意見】

- ・ 民生委員自身も困っている事柄が多様化して、種々難儀しているのだろうと推測しています。よって、まずは行政側と民生委員とのヒヤリングの機会を多く持ってもらいたい。

【問 1 2】地域福祉の推進に当たって、あなたが、行政が重点的に取り組む必要があると思うものは何ですか。（3つまで選択可）（n=229）

1	住民による身近な支え合い活動（見守り活動等）への支援	41.0%
2	介護保険法等の公的制度に基づく福祉サービスの充実・質の向上	40.2
3	身近な場所でなんでも相談できるような相談体制の整備	45.0
4	誰でも気軽に参加できる「地域の居場所づくり」	35.4
5	地域福祉の中心となる人材の養成	24.5
6	介護保険等の公的制度の対象とならないような日常生活の手助け（電球の交換、ゴミ出し等）の充実	22.3
7	地域住民等に対する福祉教育の充実	14.4
8	その他	2.6
9	特にない	0.9
10	わからない	3.5



【その他の主な意見】

- ・ 地域の福祉については、既に多くの市町村単位で取り組みが行われていますので、県と市町村との擦り合わせを優先してほしい。
- ・ 資金面、法律面でのサポート